

## 2 バリアフリー・ユニバーサルデザインの認知度

### (1) バリアフリーの認知度 (問1)

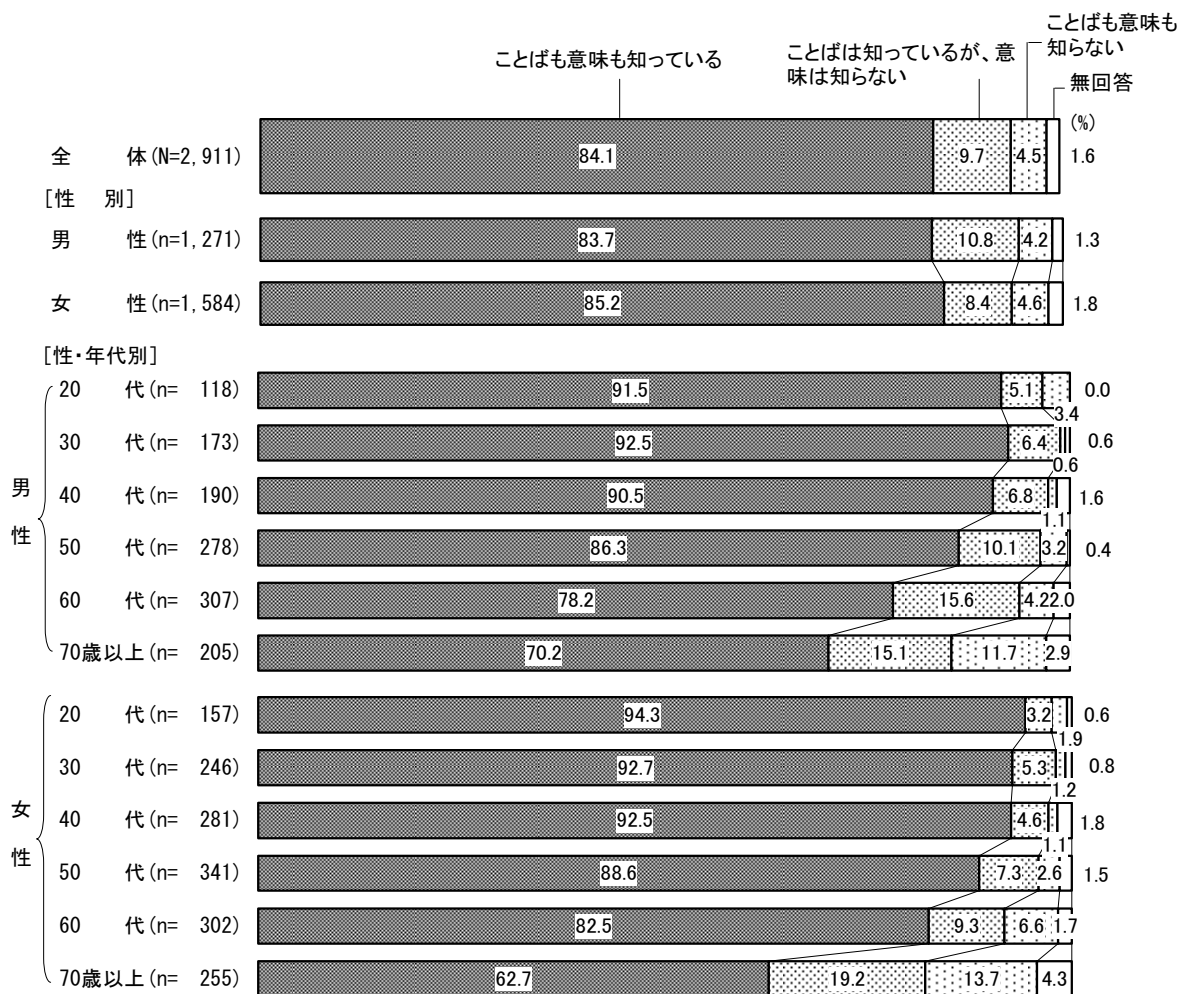
#### ① 全体及び性・年代別の結果

「バリアフリー」の認知度は、「ことばも意味も知っている」は84.1%、「ことばは知っているが、その意味は知らない」は9.7%となっている。「ことばも意味も知らない」は4.5%である (図表Ⅱ-2-1-①全体)。

性別にみると、「ことばも意味も知っている」は女性が85.2%で、男性の83.7%を1.5ポイント上回っている (図表Ⅱ-2-1-①性別)。

性・年代別にみると、男女とも若い層の認知度が高い傾向が出ている。「ことばも意味も知っている」が最も多いのは20代の女性で94.3%、最も少ないのは70歳以上の女性で62.7%となっている (図表Ⅱ-2-1-①)。

図表Ⅱ-2-1-① バリアフリーの認知度 (全体、性別、性・年代別)



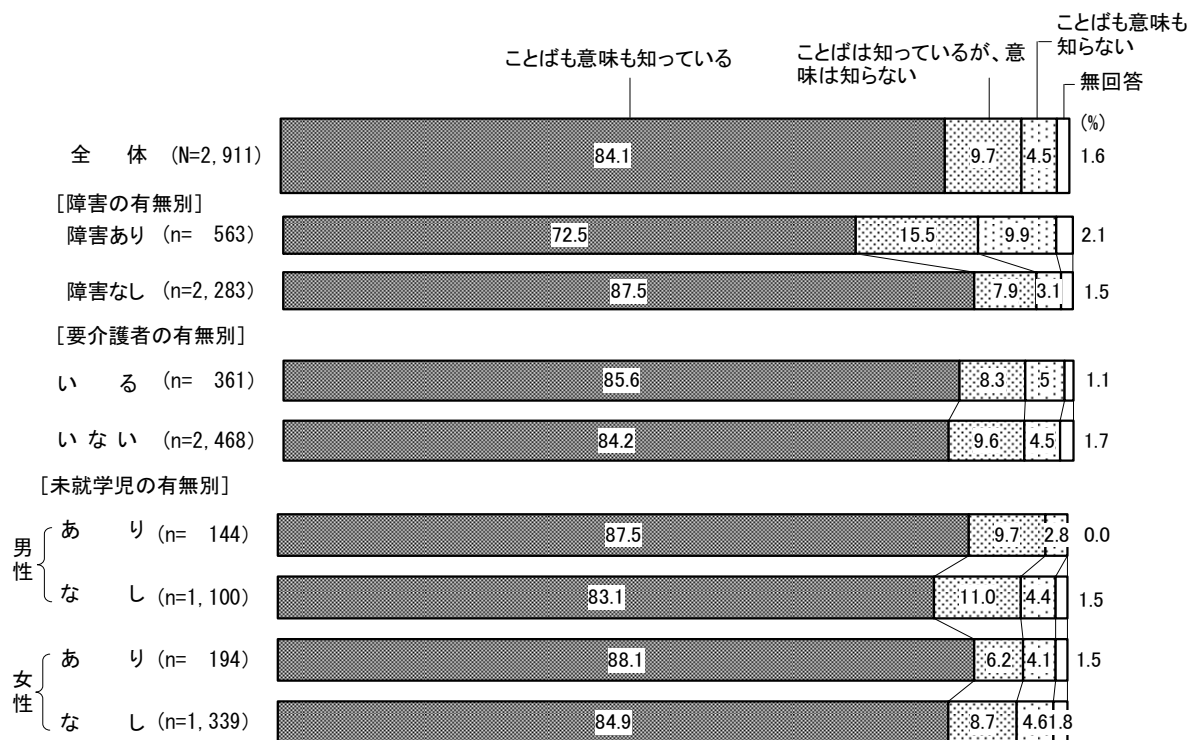
## ② 障害・要介護者・未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、障害ありは「ことばも意味も知っている」が 72.5%で、障害なしの 87.5%を 15 ポイントも下回っている（図表Ⅱ－２－１－②障害の有無別）。

要介護者の有無別にみると、「ことばも意味も知っている」は、いるが 85.6%で、いないの 84.2%を 1.4 ポイント上回っている（図表Ⅱ－２－１－②要介護者の有無別）。

性・未就学児の有無別にみると、「ことばも意味も知っている」が最も多いのは女性・ありの 88.1%で、最も少ない男性・なしの 83.1%を 5.0 ポイント上回っている（図表Ⅱ－２－１－②子どもの有無別）。

図表Ⅱ－２－１－② バリアフリーの認知度  
（全体、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別）

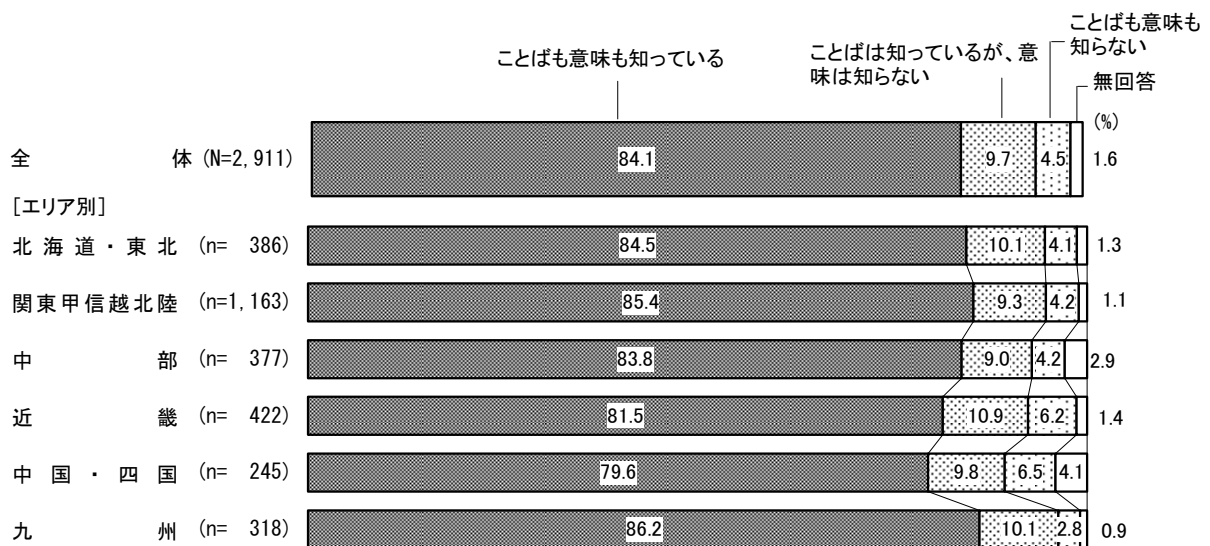


③ エリア別、都市規模別の結果

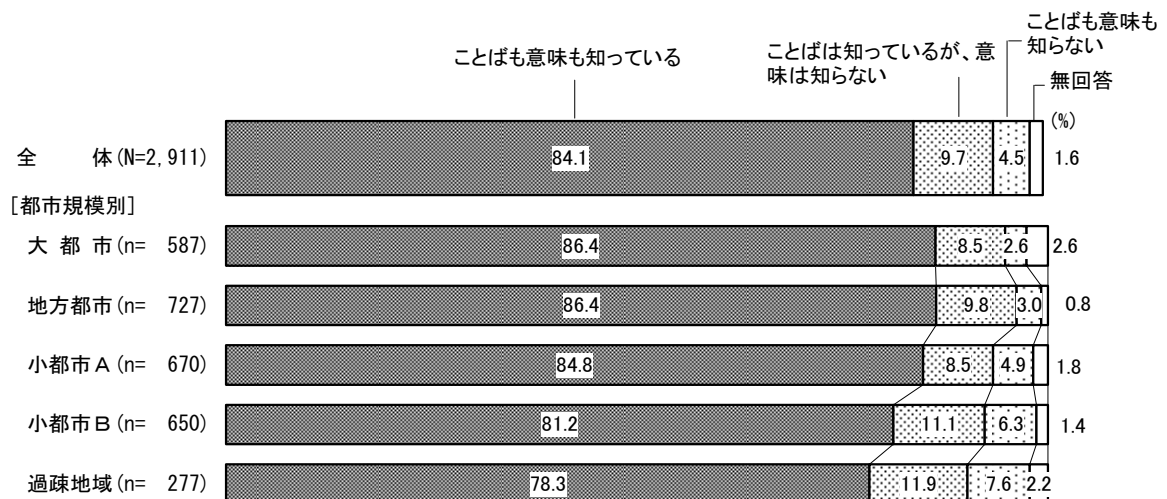
エリア別にみると、「ことばも意味も知っている」が最も多いのは九州で86.2%、次いで関東甲信越北陸85.4%、北海道・東北84.5%と続いている。最も少ないのは中国・四国79.6%で、九州を6.6ポイント下回っている（図表Ⅱ-2-1-③）。

都市規模別にみると、大都市と地方都市で「ことばも意味も知っている」が同率で最も多く86.4%、小都市A84.8%、小都市B81.2%と続いている。最も少ない過疎地域は78.3%で、大都市、地方都市を8.1ポイント下回っている（図表Ⅱ-2-1-④）。

図表Ⅱ-2-1-③ バリアフリーの認知度（全体、エリア別）



図表Ⅱ-2-1-④ バリアフリーの認知度（全体、都市規模別）



## (2) ユニバーサルデザインの認知度 (問2)

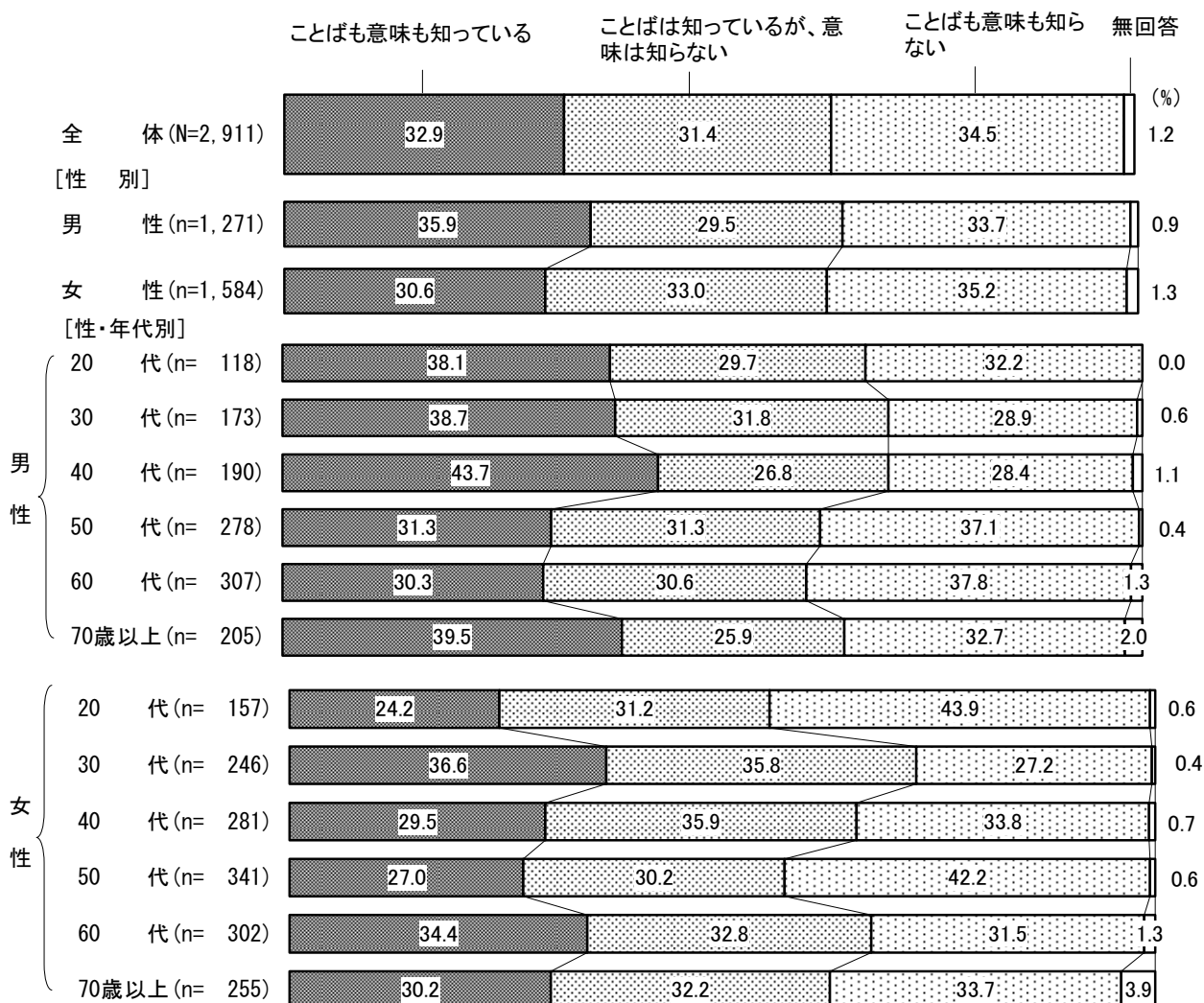
### ① 全体及び性・年代別の結果

「ユニバーサルデザイン」の認知度は、「ことばも意味も知っている」は32.9%、「言葉は知っているが、その意味は知らない」は31.4%となっている。「言葉も意味も知らない」は34.5%である(図表Ⅱ-2-2-①全体)。

性別にみると、「ことばも意味も知っている」は男性が35.9%で、女性の30.6%を5.3ポイント上回っている(図表Ⅱ-2-2-①性別)。

性・年代別にみると、男女で認知度が若干異なる傾向がみられる。「ことばも意味も知っている」男性は40代が43.7%で最も多く、次いで30代38.7%、20代38.1%であり、女性は30代が最も多く36.6%、次いで60代34.4%、70歳以上30.2%である(図表Ⅱ-2-2-①性・年代別)。

図表Ⅱ-2-2-① ユニバーサルデザインの認知度(全体、性別、性・年代別)



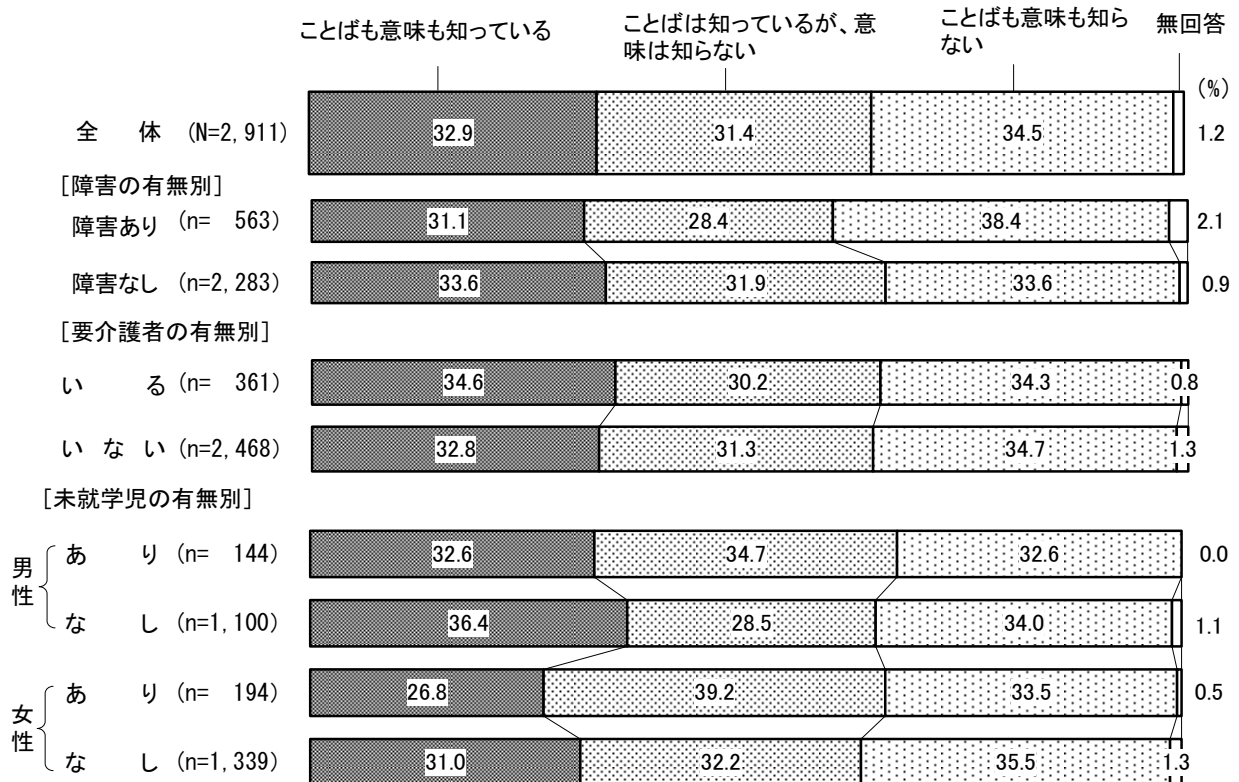
② 障害・要介護者・未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、障害ありは「ことばも意味も知っている」が31.1%で、障害なしの33.6%を2.5ポイント下回っている。また、障害ありは「ことばも意味も知らない」が38.4%で、障害なしの33.6%を4.8ポイント上回っている（図表Ⅱ-2-2-②全体）。

要介護者の有無別にみると、「ことばも意味も知っている」は、いるが34.6%で、いないの32.8%を1.8ポイント上回っている（図表Ⅱ-2-2-②要介護者の有無別）。

性・未就学児の有無別にみると、「ことばも意味も知っている」が最も多いのは男性・なしの36.4%で、最も少ない女性・ありの26.8%を9.6ポイント上回っている（図表Ⅱ-2-2-②未就学児の有無別）。

図表Ⅱ-2-2-② ユニバーサルデザインの認知度  
（全体、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別）

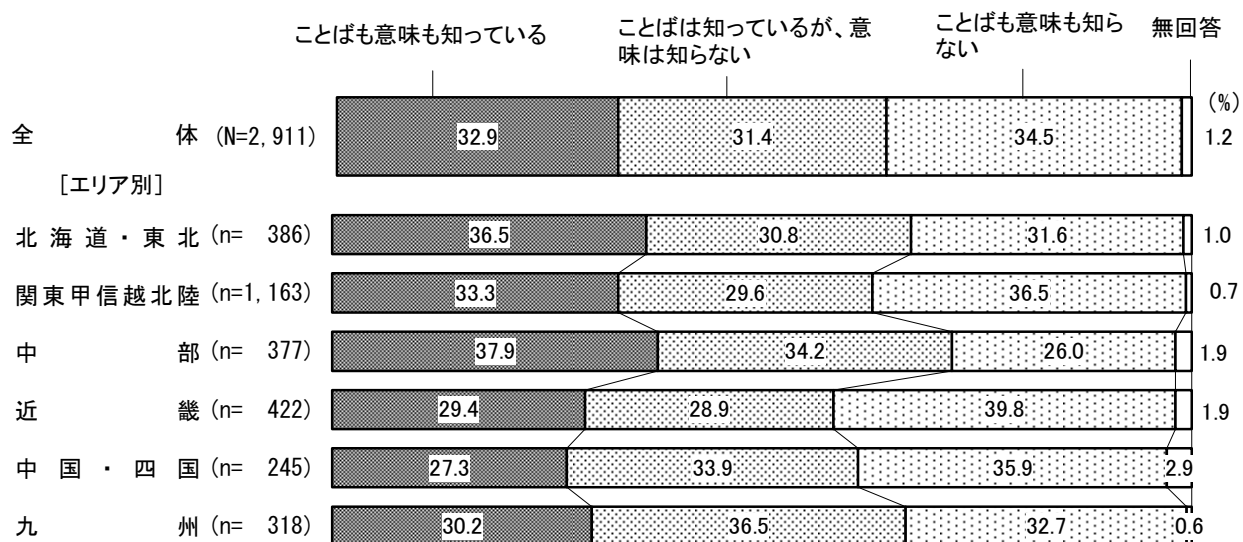


### ③ エリア別、都市規模別の結果

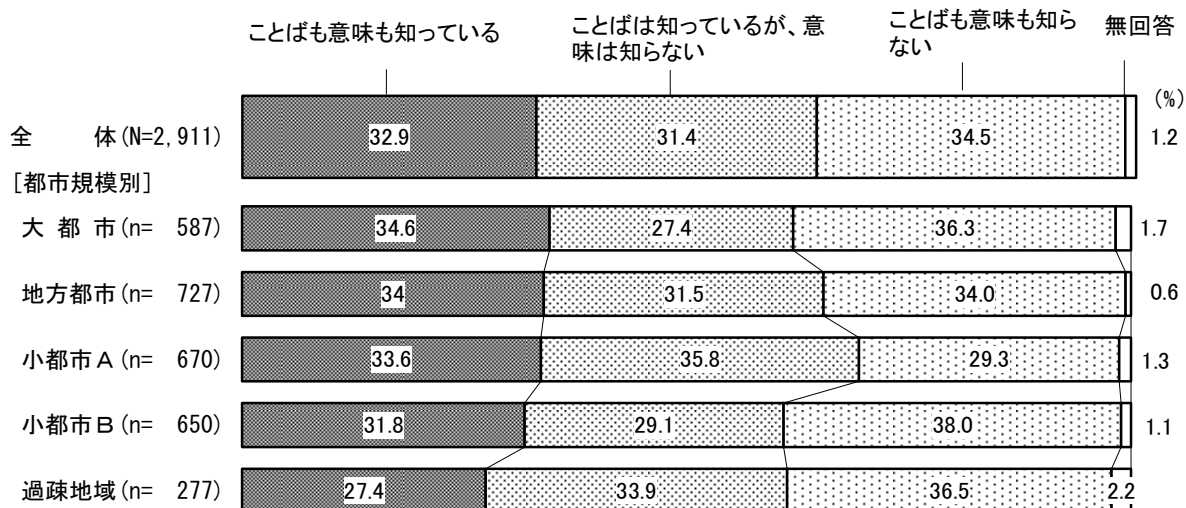
エリア別にみると、「言葉も意味も知っている」が最も多いのは中部で37.9%、次いで北海道・東北36.5%、関東甲信越北陸33.3%と続いている。最も少ないのは中国・四国で、中部を10.6ポイント下回っている（図表Ⅱ-2-2-③エリア別）。

都市規模別にみると、「言葉も意味も知っている」が最も多いのは大都市で34.6%、次いで地方都市34.0%、小都市A33.6%と続いている。最も少ない過疎地域は27.4%で、大都市を9.1ポイント下回っている（図表Ⅱ-2-2-④都市規模別）。

図表Ⅱ-2-2-③ ユニバーサルデザインの認知度（全体、エリア別）



図表Ⅱ-2-2-④ ユニバーサルデザインの認知度（全体、都市規模別）



(3) バリアフリー化が進まないことの不便さ (問3)

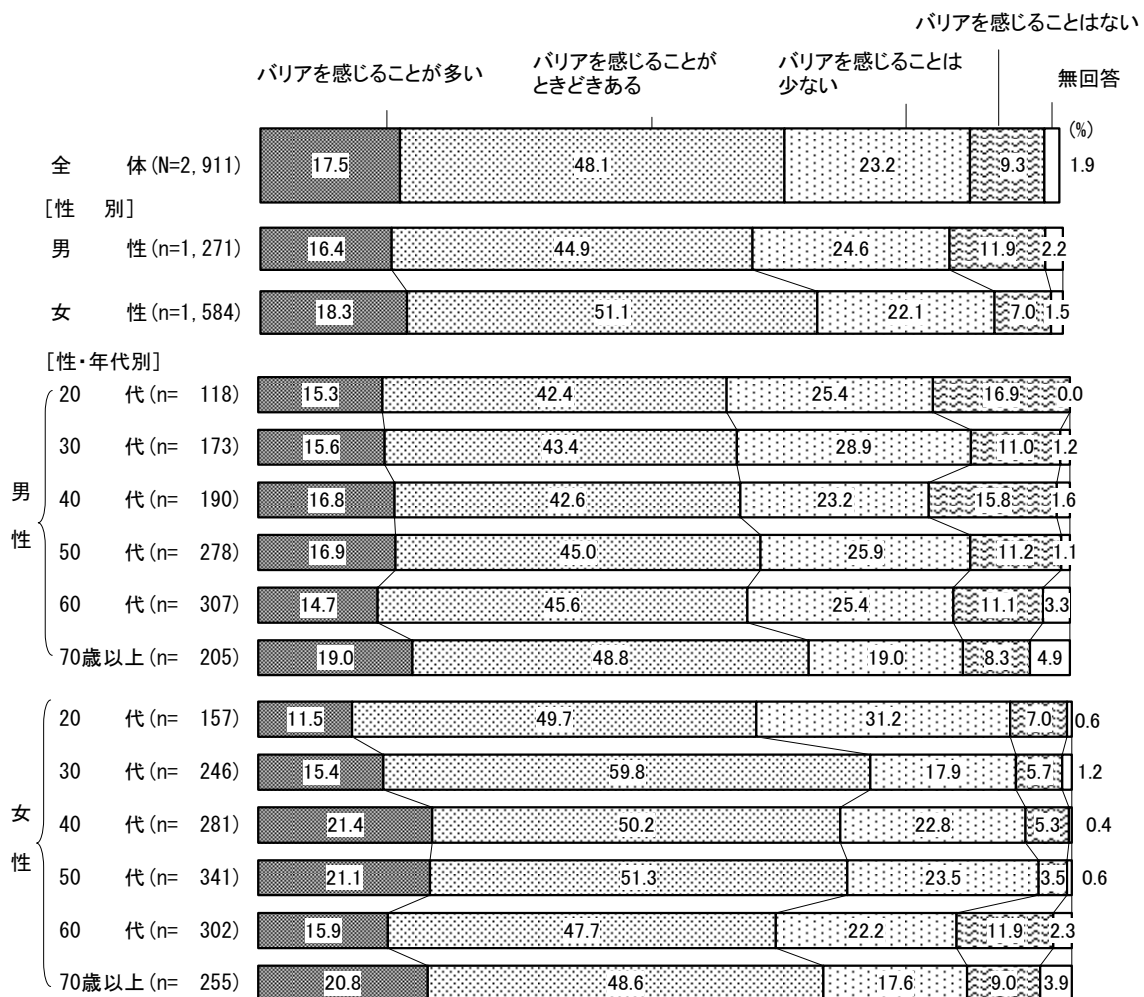
① 全体及び性・年代別の結果

「バリア」を感じている程度は、「バリアを感じるが多い」が17.5%、「バリアを感じるがときどきある」が48.1%で両者を合わせると65.6%となり、多くの国民が日常生活においてなんらかの「バリア」を感じている(図表Ⅱ-2-3-①全体)。

性別にみると、「バリアを感じる」(「多い」「ときどきある」の計、以下同様)は女性が69.4%、男性が61.3%となっており、女性が男性を8.1ポイント上回っている(図表Ⅱ-2-3-①性別)。

性・年代別にみると、男女で若干異なる傾向がみられる。男性の場合、60代を除いて年代が上がるにつれて「バリアを感じる」が多くなり、最も多いのが70代67.8%、最も少ないのが20代57.7%である。女性の場合、30代~50代で「バリアを感じる」が多く、最も多いのは30代75.2%、次いで50代72.4%、最も少ないのは20代61.2%、次いで60代63.6%となっている(図表Ⅱ-2-3-①性・年代別)。

図表Ⅱ-2-3-① バリアフリー化が進まないことの不便さ(全体、性別、性・年代別)



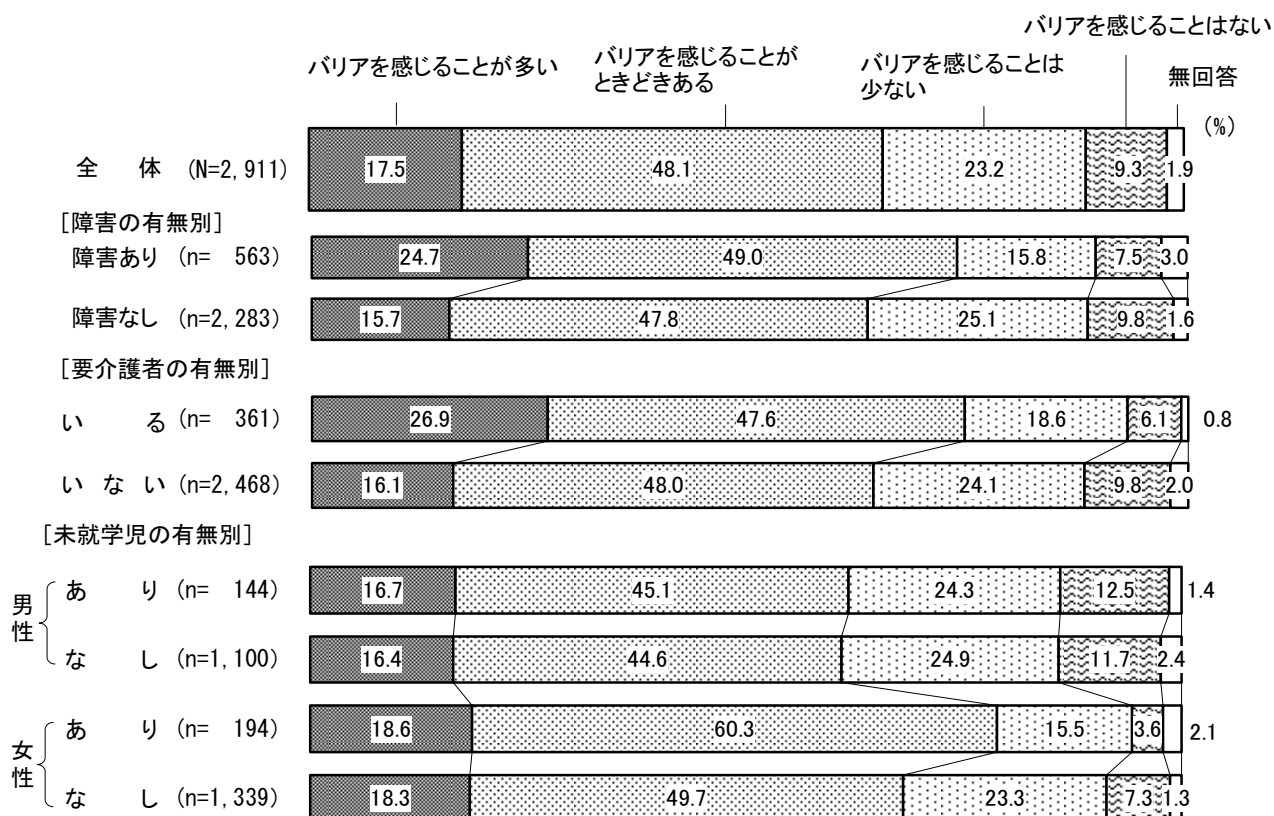
## ② 障害・要介護者・未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、「バリアを感じる」は、障害ありが 73.7%で、障害なしの 63.5%を 9.8 ポイント上回っている（図表Ⅱ－２－３－②障害の有無別）。

要介護者の有無別にみると、「バリアを感じる」は、いるが 74.5%で、いないの 64.1%を 10.4 ポイント上回っている（図表Ⅱ－２－３－②要介護者の有無別）。

性・未就学児の有無別にみると、「バリアを感じる」が最も多いのは女性・あり 78.9%で、最も少ない男性・なし 61.0%を 17.9 ポイント上回っている。

図表Ⅱ－２－３－② バリアフリー化が進まないことの不便さ  
（全体、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別）



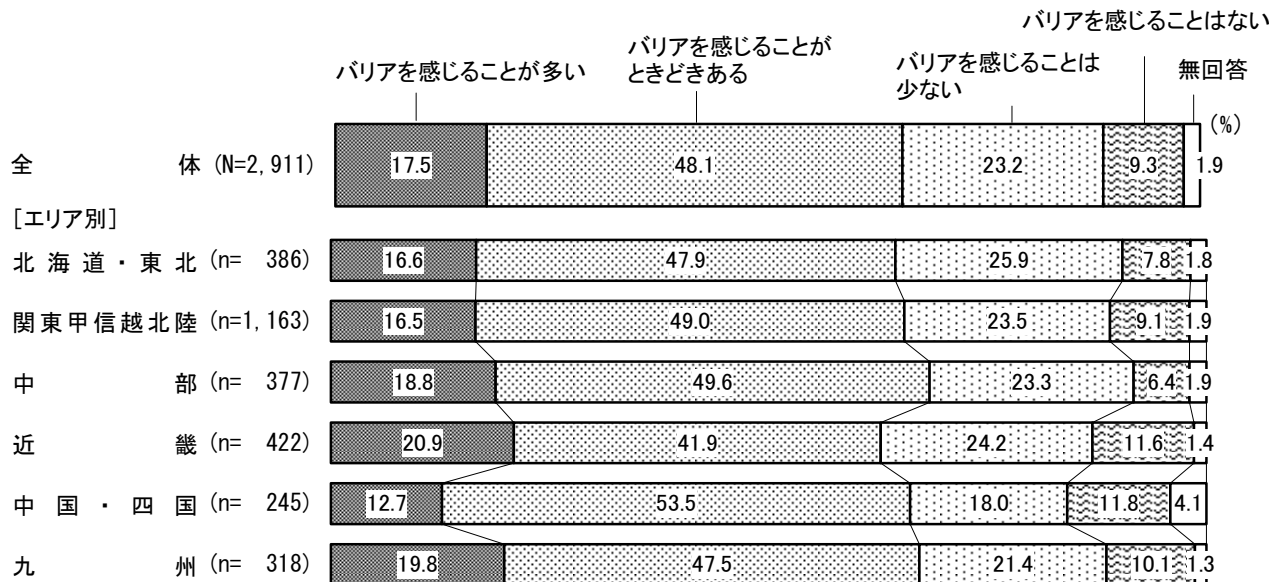


③ エリア別、都市規模別の結果

エリア別にみると、「バリアを感じる」は、中部が 68.4%で最も多く、次いで九州が 67.3%、中国・四国 66.2%と続いている。最も少ないのは近畿 62.8%で中部を 4.5 ポイント下回っている（図表Ⅱ－２－３－③）。

都市規模別にみると、「バリアを感じる」は、地方都市が 68.0%で最も多く、次いで大都市が 67.3%、小都市B 65.2%と続いている。最も少ないのは過疎地域 61.3%で、地方都市を 6.7 ポイント下回っている（図表Ⅱ－２－３－④）。

図表Ⅱ－２－２－③ バリアフリー化が進まないことの不便さ（全体、エリア別）



図表Ⅱ－２－３－④ バリアフリー化が進まないことの不便さ（全体、都市規模別）

